

「会員短信 35」

「滑稽俳句と陽転思考」 廣田弘子

滑稽俳句に出合って五年になります。初めて御紹介戴いた時は、「コッケイハイク？ なんだか面白そう」と無能無才の吾が身を省みず、気楽に入会しました。

ところが、あにはからんや、実作を通して初めて高度な文芸であることに気付きました。滑稽俳句は、十七文字の小さな箱に季語を生かし、想像の翼を広げながら、さりげなく可笑し味を交え想いを紡いでゆくと言う底知れない文芸です。

現在も四苦八苦していますが、この難度の高い文芸に挑戦することは老化防止になるうかと、毎月、協会報に提出する三句をひねり出しています。句作をしている時、右脳左脳はまるで活火山が火を吐くように真っ赤に燃えたぎり、日々加速してゆく老化現象にブレーキを掛けてくれているように思います。「継続は力なり」を信じ、密かに老化防止を期待しつつ、自らを奮い立たせています。

そしてまた私の何よりの楽しみは、八木会長と池田亮二氏のハイクアートの鑑賞です。其々の画風は異なりますが、八木アートを能に例えるならば、池田アートは狂言とでも申しましょうか、思わず笑いが零れます。いずれも平凡な日常を表情豊かに描写し、その技と絵心からは人間的な温かさが伝わり、ほっと癒されます。

日常をユーモアへと転換させる作品は、コロナ禍の一服の清涼剤。ユーモアをバネに笑って過ごしたいです。陽転思考こそ、何よりの健康の源です。